

カラスガレイ オホーツク公海

Greenland Halibut, *Reinhardtius hippoglossoides*



管理・関係機関

水産庁・国立研究開発法人水産総合研究センター

最近の動き

2014 年漁期は、底刺網漁船 2 隻が本資源を対象とする操業を行った。

生物学的特性

- 体長・体重：1 m・45 kg
- 寿命：10 歳以上
- 成熟開始年齢：5～7 歳
- 産卵期・産卵場：秋～冬、オホーツク海
- 索餌場：オホーツク海
- 食性：スケトウダラなどの魚類及びイカ類
- 捕食者：シャチなど

利用・用途

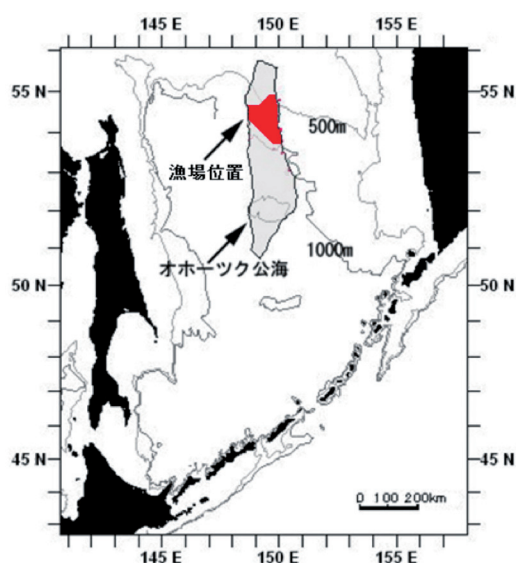
切り身や寿司ネタなどの惣菜用として利用される。

漁業の特徴

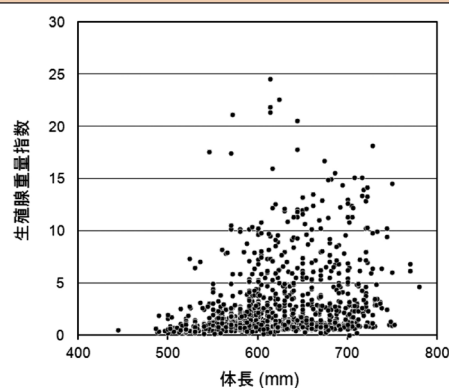
オホーツク公海はロシア水域に囲まれ、本資源は周辺のロシア水域大陸棚資源と連続すると考えられる。1980 年代半ばに、北海道漁船（知事許可船）が本資源を対象に公海で底刺網の試験操業を開始し、まもなく本格操業に移行した。1992 年以降、公海での操業と並行してロシア水域での操業が行われたが、2001 年以降はロシア水域での操業は許可されておらず、公海でのみの操業となっている。本資源の漁業は、2000 年度に北海道知事許可漁業から大臣承認漁業に移行し、さらに 2007 年度に特定大臣許可漁業となった。海水が発達する 12～4 月は休漁としている。漁業開始時の 1980 年代には 5～6 隻が出漁し、使用網数は 1,600 百～2,400 百反程度であったが、操業隻数の減少とともに網数は減少し、2000 年代半ば以降は 100 百～400 百反程度となった。直近の 2014 年は、4～11 月の漁期中に 2 隻が操業し、網数は 473 百反であった。なお、本資源を対象とした他国の漁業はない。

漁獲の動向

漁業開始時の漁獲量は 4,000 トンを超え、CPUE（刺網 1 反当たり漁獲量）も 20～30 kg/反程度の高い値を示していたが、1990 年代中頃に漁獲量は 13～767 トン、CPUE は 3.1～8.8 kg/反の低水準に落ち込んだ。1992 年以降 2000 年まで、漁獲努力の一部がロシア水域に向けられていたことが、漁獲量の減少をもたらした一面はあるが、CPUE の経年的な変動は 1990 年代中頃の資源水準が低かった可能性を示している。公海操業のみとなった 2001 年以降では、漁獲量は 119～1,672 トン、CPUE は 6.3～22.1 kg/反で推移した。直近の 2014 年の漁獲量は 450 トンで、2013 年の 493 トンから約 1 割減少した。CPUE は 9.5 kg/反であり、漁業開始時と比較して低位から中位水準であった。



オホーツク公海における近年の漁場位置



カラスガレイ (雌) の生殖腺重量指数

資源状態

漁業形態が変化している中の動態ではあるが、CPUE の推移から資源水準を判断すると、漁業開始時の 1980 年代の高位な時期から、1990 年代中頃に低水準となり、1990 年代後半から 2002 年までは中位から低位水準を経年的に変動していた。漁業形態が安定した中での CPUE のモニタリングを継続して判断する必要があるものの、近年の資源量水準は低位から中位を経年的に変動しており、現在は低位から中位で横ばいと判断される。

管理方策

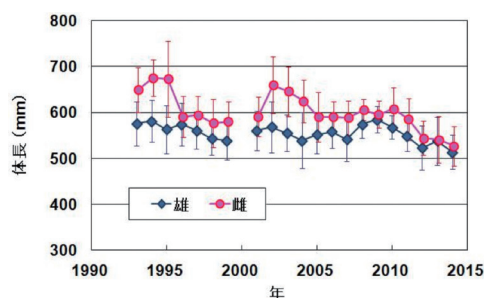
本資源は隣接するロシア水域大陸棚資源と連続していることから、この公海域の漁業管理のみによる資源保全は現実的ではない。現在は操業隻数が 2 隻に限られ、さらに冬期間には結氷のため漁業ができないことにより、実質的に漁獲努力量が制限されている。また、使用漁具の網目を 7 寸 5 分 (22.7 cm) として小型魚の漁獲を防止している。今後、極端に CPUE を低下させることのないような適正な漁獲努力の配分を行うことで、資源を将来に渡り持続的に利用することが可能と思われる。そのためには漁業情報収集体制の維持と漁獲物標本分析によるモニタリングが必要である。なお、隣接するロシア北オホーツク小海区における本種の TAC はおよそ 5,000 ～ 6,500 トンとされており、この海区も含めたロシア水域大陸棚海域における 1991 ～ 2001 年の平均漁獲量は 4,300 トンである。

資源評価のまとめ

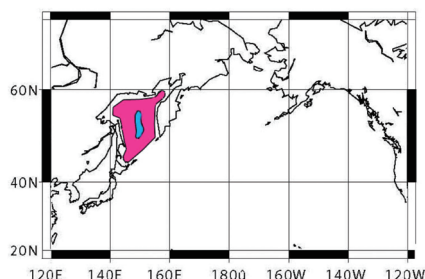
- CPUE の動向により評価
- 資源は低位から中位の水準にあり、動向は横ばい

管理方策のまとめ

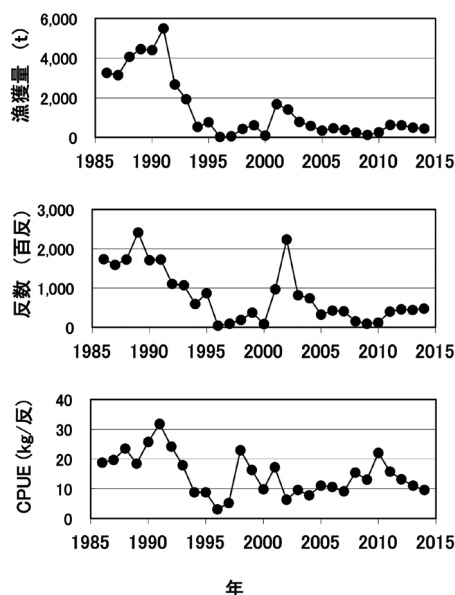
- 操業隻数制限。小型魚漁獲防止のための漁具の網目制限
- 適正な漁獲努力の配分により、将来に渡る資源の持続的利用が可能
- 漁獲努力配分のために漁業情報収集体制の維持と漁獲物標本分析によるモニタリングが必要



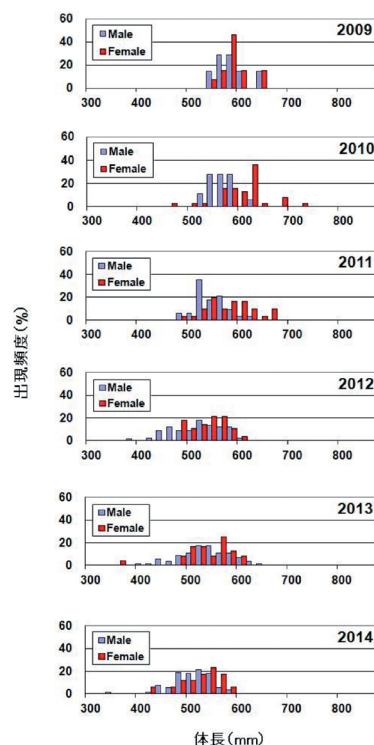
カラスガレイ漁獲物の体長 (平均値±標準偏差)



オホーツク海カラスガレイ分布域 (赤) 及び漁場 (青)



オホーツク公海におけるカラスガレイ漁獲量 (上図)、努力量 (中図) 及び CPUE (下図)



カラスガレイ漁獲物の体長組成

カラスガレイ (オホーツク公海) の資源の現況 (要約表)

資源水準	低位から中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	オホーツク公海における他国の漁獲は確認されていない
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	257 ～ 628 トン 平均：486 トン (2010 ～ 2014 年)
最新の資源評価年	—
次の資源評価年	—